

# 地元ボランティアとの協力による取り組みについて

## 【岳岱自然観察教育林内の歩道整備事例】

東北森林管理局藤里森林センター 企画官 ○安田善朝  
緑化第一係主任 高橋宏文

### 1 はじめに

白神山地は平成5年に世界自然遺産登録されて15年が経過しています。

白神山地の知名度も高くなり「白神のブナ林を見てみたい」「自然とふれあいたい」と、毎年多くの観光客や登山者が訪れています。

藤里森林センターでは、秋田県側の白神山地世界遺産地域に位置する二ツ森(1,086m)や小岳(1,042m)、周辺地域に位置する藤里駒ヶ岳や岳岱自然観察教育林のレクリエーションの森など約10,500haをフィールドとして、巡視や保全・管理活動、森林環境教育や国民参加の森林づくりの推進などに積極的に取り組んでいます。

また、遺産地域を管轄する関係機関で構成する「白神山地世界遺産地域連絡会議」において、白神山地世界遺産地域巡視員会議を年2回開催しており、関係市町村の代表者や巡視員の方々と巡視活動の状況や保全・保護活動等に関する様々な意見、情報交換を行っています。当センターでは、巡視員会議での意見や地元からの要望などを踏まえ、関係市町村、地元自然保護団体等との連携・協力を図り、歩道や登山道、各施設整備などに取り組んでいます。

今回、地元ボランティアとの連携・協力により実施した岳岱自然観察教育林の歩道整備の取り組み事例について紹介します。

### 2 岳岱自然観察教育林の歩道整備

#### (1) 岳岱自然観察教育林の現況等

岳岱自然観察教育林は秋田県藤里町を流れる藤琴川上流の標高620mに位置し、藤里町からは車で約1時間のところにある面積約12haのブナを主体とする森林です。

遺産地域と同様のブナ林が手軽に見られること、トイレや展示施設なども整備されていることから森林浴や森林環境教育の場として広く活用され、年間約8千人もの観光客が全国から訪れています。当センターでも森林教室、森林ふれあい推進事業などのフィールドとして活用しています。

教育林内の歩道総延長は約1,500mあり、平成15年からバリアフリーのウッドチップ舗装や木道を設置するなどの整備を行って



いますが、コースによっては未整備箇所や補修の必要な箇所もあり、平成19年の巡視員会議において、人が通行することによる「歩道の拡幅」や「歩道上に露出した樹木の根の損傷」などの問題が意見として出されていました。

## (2) 現地調査と検討会の開催

平成20年9月に藤里町、地元自然保護団体、米代西部森林管理署など関係者12名が参加し、歩道整備のための現地調査と検討会を行いました。現地調査では、ぬがるんで荒れている箇所や樹木の根が露出している箇所などの確認を行いました。

検討会において、整備にあたっては次の点に注意することにしました。

- ① 観光客の通行を優先し、安全確保に努める。
- ② 木道や階段の設置にあたっては、露出している樹木の根を避けて設置する。
- ③ 景観を損なうことのないように、必要最小限の整備とする。

## (3) 古材の有効活用

藤里町から「町の遊戯施設に使用した古材を有効活用できないか」という意見があり、ウッドチップを敷く箇所の縁木や木道の一部として利用することにしました。

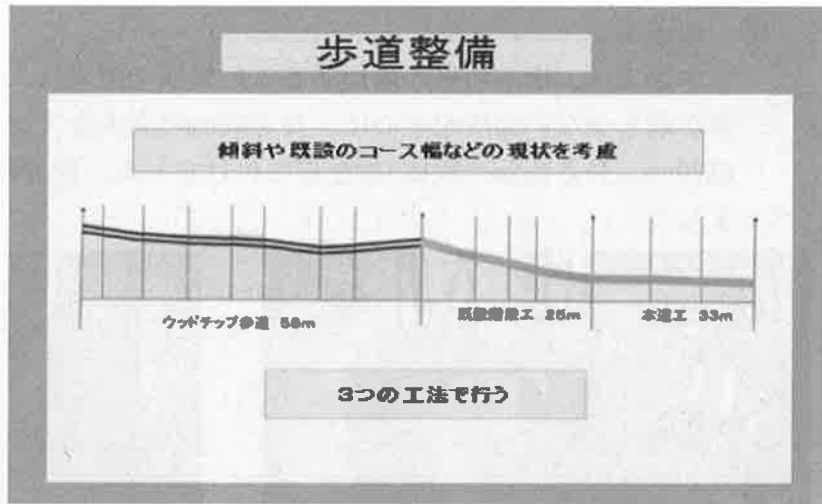
## (4) ボランティアの協力による整備

整備については、平成21年7月上旬の3日間で行いました。資材は、防腐効果がある焼き付け加工した丸太と敷板を使用しました。また、ウッドチップは3 cm前後の大きさのものを使用しました。



運搬については、当センターから岳岱自然観察教育林駐車場まで藤里町の2tトラックとボランティアの方の軽トラックを借用し、駐車場から歩道整備箇所までの約240mは車両などが使用できないため、ほとんど人力のみで行いました。資材量が多く、重量もあることから、時間がかかったものの初日で運搬作業を終えました。

2日目からは整備に入りましたが、傾斜や既設のコース幅など現状を考慮し、ウッドチップ歩道・階段工・木道工の3つの工法にわけました。



### ① ウッドチップ歩道

ウッドチップを敷く箇所は、傾斜がなだらかな区間に幅約1.2mとしました。また、敷き詰めたウッドチップが流出しないよう両側に縁木を設置し、雨水が溜まらないよう水抜き口も数箇所作り、延長58mを施工しました。



### ② 階段工

階段は、既設箇所の腐って古くなっている丸太を新しいものに交換してアンカーピンで固定しました。また、歩行により段差が大きくなった箇所については、踏み面にウッドチップを敷き、段差を小さくしました。古木を回収せず、両脇に固定し、敷き詰めたウッドチップの流失防止に有効活用して延長25mを補修しました。



### ③ 木道工

木道工は、樹木の根の露出が著しい箇所や雨水により頻繁にぬかるむ場所で、傾斜が最も少ない箇所を中心に、長さ90cmの丸太をアンカーピンで固定し、その上に幅20cm、長さ1.2mの敷板3枚を打ち付けました。設置個数は23基、延長33mを施工しました。



### (5) 準備から施工までの苦労した点

- ① 駐車場から施工箇所までの資材運搬では、一輪車3台は使用できたものの、重量に耐えきれず、タイヤがへこみ過ぎて思うように使用できなかった。
- ② 防腐効果のため焼き付け加工した丸太は、衣類に炭が付着し真っ黒になった。
- ③ 縁木を設置する際に、アンカーピン打ち込みの穴位置が樹木の根の上に当たったり、ずらすと若干の隙間ができたりと微妙な調整に手間取った。

作業は7月上旬の3日間で、延べ48名の方々に協力いただき、総延長116mを整備することができました。

整備後参加者からは、階段工は「段差も小さくなってよかった」木道工は「露出していた樹木の根も隠れて傷つかなくなる」「ぬかるむ箇所を避けて通らなくてよくなったので、歩道が拡幅しなくなる」、また、当日訪れていた観光客からは、「ウッドチップがクッションとなって歩きやすい」などの感想をいただきました。



### 3 今後の課題

今回の岳岱の歩道整備は、資材の提供、資材・機材の運搬など藤里町や地元自然保護団体の方々の協力があったからこそ実施できたものと考えています。

作業時期が観光シーズンの7月になったことを反省点にし、シーズンをさけた時期に行うようにしたいと考えています。

また、地元自然保護団体等ボランティアの年齢層も高くなってきていることから、このような作業は年々厳しくなることが想定されます。今後は、新聞掲載やホームページで一般ボランティアの方を募集するなど、取り組みを広げていけるようにしたいと考えています。

今回は、世界遺産周辺地域での取り組み事例だったのですが、遺産地域内の小岳、二ツ森の登山道でも前回整備してから5年が経過しているため、修繕の必要な箇所もでてきています。今後は、緊急度や優先度を勘案し、関係する機関、市町村、団体などと連携・協力を図りながら計画的に進めていきたいと考えます。

**今後の課題**

- ◆ 整備の実施は観光シーズンをさけた時期にする
- ◆ 一般ボランティアの募集など取り組みをひろげる
- ◆ 緊急度や優先度を勘案し計画的に実施する

### 4 おわりに

秋田県側の遺産地域は、二ツ森、小岳の登山コースしか原則入山が認められていません。岳岱自然観察教育林のように、子どもからお年寄りまで手軽にふれあえるフィールドは貴重であり大切だと考えています。これからも地元の方々と連携し協力を得ながら、遺産地域及び周辺地域の保全・管理に積極的に取り組んでいきたいと思えます。そして、白神山地を後世に守り継いでいこうという気運がどんどん高まるよう熱望します。



二ツ森から白神岳を望む